

穂 学



令和4年度

広島日本人学校 学校便り

[No.15]

令和4年11月1日(火)

発行責任者 校長 加藤康徳

「運動会は中止でしたが目的は達成しました！」

参観を楽しみにしていた保護者の皆様には大変申し訳なかったのですが、令和4年度の広島日本人学校運動会は、広島市内の新型コロナウイルス感染症に関する市行政の指導を受け、急遽中止と言う判断をさせて頂きました。

しかし、運動会は中止でしたが、その目的は達成されなかったかと言うとそうではありません。運動会の目的は以下の通りです。

※以下は運動会の目的ですが、それまでに実施される授業の目的でもあります。

- 運動や健康についての意欲や関心を高め、力いっぱい運動する喜びや達成感を味わわせる。
- 集団の一員としての自覚を高め、協力して実践できる力を育てる。
- 異学年間の交流やふれあいを図り、お互いの親睦を深める。

この目的を達成するために総練習を「練習の成果を発表する場」と捉え、事前に子どもと教職員全員で運動会の目的を確認し、保護者の応援は無かったのですが「授業」として運動会の3つの目的を達成することができました。

開会式の練習で私から子ども達に話をしました。「計画したことでも中止になったり、延期になったりすることが世の中にはあります。ただ、出来なくなったことを嘆いていても仕方ありません。大切なことは目的を見失わずに、どう工夫をすればその目的を達成することができるのかを考え、実行することです。今年の運動会は中止になりましたが、その代わりにこのことを私たちは学びました。この学びは大きなことです。忘れないようにしましょう。」

現在も広島市のコロナの感染は予断を許さない状況です。市の行政も大規模なロックダウンにならないように最小限の小区、地区で感染の拡大を抑えてくれています。広島日本人学校としては今後も市行政の指導を受けながら、「目的を見失わず」にできる限り子どもの教育を止めないようにしていく覚悟です。

保護者の皆様におかれましても、引き続き感染拡大防止のための各種取り組みへのご協力をよろしくお願いいたします。



(白組応援団)



(赤組応援団)



(黄組応援団)



(青組応援団)

※総練習後に応援団ごとで集まり解散式を行いました。(感動的な場面でした。)

＜学校経営のスローガン＞
「つながり」を「未来に実感」させる
広州日本人学校の創造

＜大切にしている5つのつながり＞

- ①先生とのつながり
- ②授業とのつながり
- ③友だちとのつながり
- ④保護者・日本人社会とのつながり
- ⑤中国とのつながり

＜公開研究授業＞

○広州日本人学校では全教諭による公開研究授業を実施しております。公開研究授業を実施することで、授業をする側も参観する側お互いに教師としての授業力の向上を図っています。

で

＜在広州韓国入学校を訪問＞



○広州の番禺区にある「在広州韓国入学校」を訪問させていただきました。金校長先生にとっても温かく迎えられ、英語の授業や学校の施設を見学させていただきました。

韓国入学校は小学部、中学部、高等部、補習校の4つの学部の児童生徒が一つの校舎で学んでいました。韓国入学校は3月1日が年度の始まりで、日本と比べると1カ月早く学校がスタートします。日本も韓国も第2言語は英語です。この訪問をきっかけとして、英語による教員同士の交流、児童生徒の交流を通して韓国との交流も推進していきたいです。今度は韓国入学校の先生が本校に来ていただくことになっています。



＜濱田先生：小1学級活動＞



＜小此木先生：小4英語＞



＜廣本先生：中1数学科＞



＜稲垣先生：小2英語＞



＜仲山先生：小6算数科＞



＜伊藤先生：中3国語科＞



＜岡田先生：小5社会科＞



＜多田先生：中3英語科＞

＜運動会の練習の様子をアップしました。＞

○令和4年度の運動会は、広州市内において新型コロナウイルスによる陽性者が増加している状況から「中止」になりました。ここでは運動会に向けての練習の様子（特に友達と協力している姿）を写真でご紹介させていただきます。



＜中学部：団体演技＞



＜小5.6年：団体演技＞



＜小3.4年：団体演技＞



＜小1.2年：団体演技＞



＜先生達も頑張りました！＞